

Webサイト紹介

生物多様性ビッグデータ！

「日本の生物多様性地図化プロジェクト」



サイトのQRコード

自分の住む地域や関心のある地域の自然に、どんな生きものがいるのか、あるいはいないのか？それはどうしてなのか？これは、生きものの自然にまつわる今も昔も変わらない根本的なテーマだと思います。そのためには、どこにどんな生きものがいるのかといった情報をこつこつと積み上げることが必要で、都道府県単位でも、集約するのはとても大変な作業でした。

長野県に限ってみると、植物分野ではデータベース化が先取的に取り組みられてきた経緯があります。「長野県植物誌」（長野県植物誌編纂委員会（編））は1997年に刊行されましたが、その活動開始は1978年にさかのぼり、当時としては新規的なコンピュータのデータベースに基づく植物誌であることを大きな特徴としていました。そのデータベースは、植物の標本情報・分布情報に約5km四方のメッシュによる（標準地域メッシュの5倍地域メッシュと同一区画）位置座標を付して整備したもので、植物分布図作成を容易にしたほか、その後、長野県によるレッドデータブックづくり（長野県2002）などにも大きく活用されてきました。



「日本の生物多様性地図化プロジェクト」トップページ

長野県以外でも、こうした植物産地情報のデータベース化の取組は各地で進んできましたが、これをさらに日本全体で、しかも植物に限らず動植物（植物・哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・淡水魚類・沿岸魚類・イシサンゴ類）について1kmメッシュで分布情報（分布推定を含む）を整備し可視化（地図化）してしまうプロジェクトのホームページが2020年4月に公開されました（琉球大学理学部 久保田康裕 研究室）。まさに生物多様性のビッグデータ（いわゆる昨今のICT技術によるビッグデータとは少し違いますが）！長野県を含む日本国内の動植物の種多様性の高い地域やレッドデータブックに記載された種が多い地域、また保全優先度の高い地域などを地図に表示してくれます。関連したホームページとして、このデータベースをもとに「日本の47都道府県の生物多様性」も公開されています。長野県ももちろん紹介されていますので、ぜひこちらをご覧ください。

今回紹介したWebサイトを見ていると、こうした生物多様性情報の元となる自然史資料の蓄積、特に身近な場所の記録の重要性を改めて感じます。サイトでは、観察データの充足度も示されますが、人里周辺の身近な場所の情報補填が決して多くありません。言わば“その辺の裏山”の生物資料の蓄積が、長野県を含む日本の生物多様性の解明にはまだまだ欠かせないのではないのでしょうか。

* 参照：久保田康裕（琉球大学理学部・株式会社シンクネイチャー）<https://thinknature-japan.com/>

（尾関 雅章／自然環境部）



「日本の47都道府県の生物多様性」はこちら

